

きもの豆知識

東京シルクについて

かつては日本の一番の産業であった養蚕。昔ほどの地域にも桑の畑があり、家でお蚕さんを飼っている家庭も多かったと聞きます。現在、国産の繭は全体の1%未満となり、ほとんどを中国やブラジルから輸入に頼っているのが現状です。そんな中、少量ではありますが、純国産の繭を作っている地域が存在します。

100%東京生まれです



その一つが東京シルクです。
東京多摩地区に残る7軒の養蚕農家の繭を使い、多摩の伏流水と通常の何倍もの時間をかけるゆっくりとした生練り製法(※)のため、糸に無理がかからずそのため肌触りがふっくらとして優しく、純白で美しい艶があります。着る人にぜひたくさと満足感を与えてくれます。
※生練り…繭を乾燥させず、蚕が生きたまの状態で糸をほぐして練ること。

年間生産反数も80本程度と大変希少性の高い絹です。

9月の大創業祭では東京シルクの作品も多数展示いたします。



歌舞伎のススメ

～歌舞伎の文様～

江戸時代などに歌舞伎から生まれた柄で、現在でも皆さんになじみの深いものがたくさんあります。例えば、「鎌」、「輪」、「ぬ」で構成された「かまわぬ」の柄は七代目團十郎が鶴屋南北(つるやなんぼく)の「累(かさね)」で悪役の与右衛門を演じた時の衣装で、洒落の効いたこの柄またたく間に広まっていきました。このように、演じた役などにより生まれた柄や役者のこだわりによって生まれた柄をいくつか見てみたいと思います。



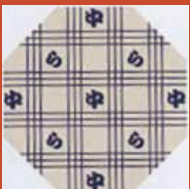
鎌輪奴(かまわぬ)

鎌、輪、ぬで「かまわぬ」と洒落た元禄時代からあった柄だが、7代目團十郎が用いたことから江戸の流行となった。



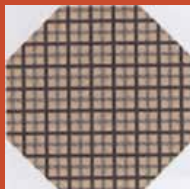
斧琴菊(よきこときく)

斧を別読みした「よき」と「こと」「きく」で「善き事聞く」となる。団十郎のかまわぬに対抗して作られた。



中村格子

縦横3本の格子の中に「中」と「ら」が入って「中六ら」。縦横6本の格子などもある。



弁慶格子

縦、横とも幅広で同じ幅の格子縞。茶と紺を茶弁慶、紺と浅葱色を藍弁慶という。大柄で男らしい模様なので弁慶格子、弁慶縞と呼んだ。



かわちやの

着付教室 12回

1回1000円

かわちやの着付け教室ではそれぞれの目的やスケジュールにあわせたカリキュラムを組んでいきます。

お気軽にご相談ください。

お問い合わせは

TEL 0563-35-0039 大橋幸子まで



カフェ「霞中庵(仮)」オープン予定!?

ウソかまことか! 現在かわちやの中庭「霞中庵」にてカフェをオープンする計画がある模様。進展したらまた次号でもご報告いたします。どうぞ期待!



着物クリーニング

何でも 汚れの種類や程度によって追加料金がかかる場合がございます。

2点7,560円

着たあとのお手入れは大切!

草履・下駄はありますか?

履物の調整

1足500円



草木染講習会

日時 9月21日(水)

会費 1,000円+材料費

用意するもの: 厚手のゴム手袋、エプロン



今回は紅葉で散る前の桜の葉で染めます。秋の夕暮れのような柿色に染まります。

イベント案内



大創業祭

9月10日(土) ~ 12日(月)

訪問着、紬、小紋、コート地、色無地 袋帯、名古屋帯、印伝、絣洋品 他